



涅槃図

ねはんず

津市専修寺の涅槃会で祀られる
絢爛たる巨大涅槃図。

魚、昆虫、洋犬、蜘蛛など

仏画には異色のモチーフが描き込まれ、
毒を含んだ新鮮な着想が、

絵画としての面白みを高めている。



一幅 江戸時代後期 551.0×405.3cm 紙本着色 専修寺蔵

CHRONICLE
OF MIE
VOL.7

【美術編】

山口 泰弘 やまぐち やすひろ
教育学部・美術教育講座教授
専門は江戸時代絵画史

涅槃図は、釈迦入滅の日とされる陰
暦2月15日(現在では3月15日)に
釈迦の遺徳を讃えるために催される涅槃会
において本尊として祀られる。仏画の中でも
遺作の極めて多い画題の一つだが、現在
も法会の中心として実際に使われている例
が少なくない。今回取り上げる涅槃図は、
三重県津市一身田にある真宗高田派本
山専修寺で例年営まれている涅槃会(同
寺では現在も2月15日に行われる)に、本
尊として如来堂に懸懸されるものである。

大きさは、本紙だけでも縦551.0cm、横
405.3cmときわめて大きなもので、如来堂
内の巨大な空間を想定して制作されたこ
とがわかる。

釈迦や菩薩も皆金色で描かれ、朱線で
肉身の輪郭や相貌が入念に象られる。法
衣には金泥で微細に文様が施されるほ
か、釈迦の横たわる宝台や会衆の衣も、
金泥や豊かな濃彩、綿密な描写によつて
織物と見紛うほどの精巧さで描き込まれ
ている。また、画面を取り巻く表装は、実は布
ではなく、画面と同じように紙本に肉筆で
描かれており、描表装と呼ばれる。

形式としては鎌倉時代以来定型化が進
んだ涅槃図のバリエーションの一つである
が、実は、画面のそこそこに異色のモチ
ーフをちりばめているところに、他に類例を見
ないこの涅槃図の特徴がある。

その最たるものが、図の下部の蒼い水を
たたえた池。涅槃図に池を描いた例は他に
ない。鱒や鮎あるいは鴛鴦、鴨のつがい
が泳ぎ、鯉が身を躍らせる。池畔では、蟹や亀
が這い出し、鶯・鶯・白鷺など水禽の群
が集まる。池の上端に目を凝らしてみると、
バッタ・カマキリ・コオロギ・トンボ・チョウな
ど、うっかりすると見過ごしかねないほど小
さな虫類も集まっていることに気づく。それら
は丹念な筆で、まるで昆虫図鑑から抜け出
たかのように精緻に描写されている。

下辺右端にうずくまっている白象の後か
ら洋犬が姿を覗かせているが、洋犬も涅槃

図の伝統にはなかったモチーフで、西
洋との交易を想わせる。

沙羅双樹を見ると、左端の樹上に鷹と
梟のつがい、一本おいて鳳凰、右端の樹
上には孔雀のつがい、釈迦の入寂
を静かに見おろし、樹間をさまざまな小禽
や蝙蝠が気ぜわしく飛び交っている。涅槃
図に鳥が描かれることは珍しくないが、画
面下部に他の動物と一緒に描かれるのが
一般的である。ほかにも、樹幹に蟬が止
まっていたり、蜘蛛が巣を張っていたりと、
釈迦入滅という厳粛な場面にもふさわしいと
は思えないようなモチーフをあえて描いて
いるところが実に奇異な印象を与える。奇
異と言えば、池畔に座る猿に至っては、釈
迦の死を悼む気持ちなどまったく意中にな
しといった風情で一心に水中の獲物を
狙っているほどである。

このように、涅槃という厳粛な場面に際
会するには異例異態の動物たちが諸
処に巣くっているのが、この涅槃図の大き
な特徴である。宗教的な因子がないと言
い切ることはいかぬだろうが、真摯な仏画
にあえて毒を流し込む逸脱ぶりや新鮮な着
想が、この涅槃図の絵画としての面白さを
ひときわ高めているのである。

この図は江戸時代後期の作と考えられ
るが、この時代には、伝統からみると一風
変わった奇に傾く涅槃図が描かれるよう
になった。その代表的なものとして、在原
業平が衣冠の正装で横たわり元禄美人が
取り囲んで悲嘆に暮れる場面を描いた英一
蝶「業平涅槃図」(東京国立博物館蔵)
や大根が涅槃に入って野菜たちが集うと
いう趣向の伊藤若冲「野菜涅槃図」(京
都国立博物館蔵)などの見立絵がある。
仏画と言うには俗で、個人的な意味づけ
や趣向が入り込んで画想を面白くしてい
るという点で、確かに江戸的存在である。こ
のような卑俗な笑いがもてはやされる時代
が、この涅槃図登場の基層としてあったこ
とを忘れるわけにはいかない。



伊藤若冲「野菜涅槃図」(京都国立博物館蔵)。大根を釈迦に見
立てるほか、一切を野菜に置き換えた涅槃図のパロディが可笑し
みを誘う。作者は、江戸時代中期の画人伊藤若冲(1716-1800)。
若冲は青物問屋の主でもあった。



[上]如来堂(重要文化財)。専修寺伽藍では、御影堂に次ぐ大堂。
間口25.66m、奥行き26.62m。一重入母屋造。本尊阿彌陀如来。
涅槃図は、2月15日に営まれる涅槃会に、この堂の余間に掛けられ
て供養される。

[下]涅槃図(部分)。馬がもがき、ツキノワグマが目頭を抑えて悲嘆
にくれる。擬人化された動物たちが、悲しみと同時に可笑しみを
見る者に伝える異例の表現が、この涅槃図の特徴づける。